

友の会だより

No.62

2020.10

茨城県陶芸美術館友の会

展覧会
案内

人間国宝 松井康成と原清 展

会期：2020年10月31日(土)～2021年3月21日(日)

主催：茨城県陶芸美術館 後援：茨城新聞社

休館日：毎週月曜日〔ただし11月2日, 11月23日, 2021年1月11日は開館。〕

11月4日(水), 11月24日(火), 1月12日(火), 年末年始(12月28日(月)～1月1日(金))

当館は、重要無形文化財「練上手」保持者の松井康成(1927-2003)と「鉄釉陶器」保持者の原清(1936-)の作品を多数収蔵しています。本展では、二人の作家の表現の深まりやひろがりにつれながら、それぞれが到達した美の形について掘り下げていきます。



▲松井康成
練上嘯裂西手壺
(1982年 当館蔵)



▲松井康成
練上嘯裂西手大壺「深山紅」
(1981年 当館蔵)

原清は、重ね掛けした黒釉と褐色釉とおおらかなフォームにあしらった「鉄釉陶器」を中心に、美しく青みがかった釉調が特色の「鈞窯」や、翡翠に似た発色をする「翠釉」など幅広い作風を展開しています。また代名詞と言える馬文の大壺や大鉢などを始め、風に揺らぐ草花など自然を題材としたものも多く、彼の自然への愛着を感じさせます。

二人の人間国宝の技法や制作時期など、様々な観点から着目し、彼らの作品の魅力を紹介いたします。

松井康成は、1960年代終わりに初期の練上を発表して以来、器胎表面に生じる亀裂を生かした「嘯裂」や「象裂」から、表面を研磨することで練上の文様を鮮やかに浮かび上がらせた「玻璃光」など、練上を中心に独自の表現を展開していきました。数ある作品の中でも作者が「美須麻流之珠」と表現したような「珠」に対する思いにも焦点を当てて紹介します。



▲原清
鉄釉馬文大壺
(2005年 当館蔵)



▲原清
鈞窯八角鉢
(1972-1973年 当館蔵)

● 展覧会関連催事のご案内

* 詳細は、チラシや当館ウェブサイト等をご覧ください。お問い合わせください。

◆ ワークショップ1 「体験！人間国宝の技 その1 (“抜き絵”に挑戦しよう!)」 [要予約]

内容：抜き絵技法を用いて陶器のお皿に文様を描くワークショップです。

日時：12月5日(土) 13時30分から15時30分

対象：中学生以上

参加費：無料(展覧会をご観頂く場合は、別途観覧料が必要となります。)

定員：10名(先着順)

◆ ワークショップ2 「体験！人間国宝の技 その2 (“練上手”に挑戦しよう)」 [要予約]

内容：オープン粘土で練上技法をつかって小さな壺形オブジェをつくるワークショップです。

日時：2月6日(土) 13時30分から15時30分

対象：中学生以上

参加費：無料(展覧会をご観頂く場合は、別途観覧料が必要となります。)

定員：10名(先着順)

ワークショップのご予約は、お電話にて10月31日(土) 9時30分より受付を開始いたします。定員になり次第受付終了いたします。

(電話 0296-70-0011 受付時間 9時30分～17時00分 休館日は受付できません。)(※詳しくは当館ウェブサイトにてお知らせします。)

◆ ギャラリートーク [予約不要 ただし先着15名] ※新型コロナウイルス感染防止対策のため人数を制限いたします。

担当学芸員が展覧会をご案内いたします。

日時：11月7日(土), 12月19日(土), 1月16日(土), 3月6日(土) 各日とも13時30分から

会場：当館地下1階企画展示室(展示室入口にお集まりください。)

参加費：無料(観覧料にてご聴講いただけます。)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の状況により予告なくイベント等を中止・延期する場合がございます。変更の場合には、当館ウェブサイトにてお知らせいたします。

茨城県陶芸美術館ホームページ <http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

お茶の時間を豊かにしたい

山崎さおりさんを訪ねて（8月25日）

急須・土瓶・湯呑みなど、茶器を中心に制作をされている山崎さおりさんをお尋ねしました。お子さんが飼っているというウサギ、そして人なつっこい猫に出迎えられ、笑顔が素敵な山崎さんから急須作りのお話を伺いました。



ご出身は

北海道旭川です。

陶芸の道に進まれた経緯についてお聞かせください。

短大を卒業後、地元の会社で働いていましたが会社が倒産をしてしまい別の仕事を探すことになりました。もの作りの仕事をしたいとの思いがあり、愛知県瀬戸市の愛知県立窯業技術専門校のデザイン科で学びました。卒業後、陶芸をするなら笠間だと思い、笠間の原陶工房に弟子入りし粘土練りや雑用をしながら陶芸の道を歩み始めました。

急須作りに専念するようになったわけをお聞かせ下さい。

急須との出会いは窯業技術専門校時代です。常滑で急須を作られている水野博司さんの工房を訪れた時に、学生だった私に轆轤を挽くところを見せていただきました。そして水野さんの作品に魅せられ急須を買い求め今も大切にしています。繊細で美しい（バランスが完璧）急須をみて「自分もこんな急須を作りたい」と強く思い、水野さんの急須が私の目標となり独学で急須を作り始めましたがその目標は今も変わりません。急須は胴・注ぎ口・取っ手・蓋・茶こしのパーツの組み合わせですが、そのバランスが大切です。10個分ほどのパーツができれば各パーツを合わせます。ぴったりと蓋を付けた状態で焼くので胴と蓋がくっついた状態で焼き上がります。窯出をした後、胴と蓋のすり合わせをしますが研磨剤を使って磨くので手が荒れて血がにじむこともあります。一つ一つ丁寧に作ることを心がけています。失敗に学びながら使い勝手の良い、そしてバランスのとれた形を目指しています。現在、月に50個～70個ほど制作しています。

これからの方向性についてお聞かせ下さい。

急須はお茶を飲むための道具ですが、お茶の種類（日本茶・中国茶・紅茶・・・など）や飲む人数など用途に合わせてサイズ、色（土や釉薬）を変えています。これはお客様からの声を参考にさせていただいています。できた作品は個展や企画展を中心に、お茶屋さんや和菓子店でも販売していただいています。またSNS等で作品を紹介しています。外国の方との交流も広がり香港で主人と二人展（ご主人も陶芸家）も実施しました。国内外の方との交流の中で、お茶の時間を楽しみにしている方がたくさんいることを知りました。そうした方々のお茶の時間を豊かにできる茶器、そして自分の目標に近づけるようこれからも一つ一つ丁寧に作っていきたいと考えています。

プロフィール

- 1975 北海道旭川市生まれ
- 1996 愛知県立窯業技術専門校デザイン科卒業
- 1997 益子・笠間にて陶芸を学ぶ
- 2001 笠間市押辺に開窯
- 2006 笠間市金井に移窯

対談を終えて

急須は単にお茶を頂くときの道具だけでなく日常生活の中で人と人を結びつけ、つなげる物であると思いました。日本の伝統文化である茶道に通じます。土のもつ自然の風合いを生かした急須は歴史を忍ばせながら未来へと進んでいくと感じました。尚、山崎さんの作品は、陶芸美術館第2展示室「笠間と益子の急須展」（令和2年10月14日～令和3年1月17日）で紹介されます。



「飴釉炭化急須・茶壺・土瓶」2020年

笠間と益子の急須展

令和2年10月14日(水)～令和3年1月17日(日)

本年度、「かさましこ ～兄弟産地が紡ぐ“焼き物語”～」の名称によって共同で日本遺産に共同で認定されるなど結びつきが深まっている笠間と益子のやきものについて、両産地で活躍する急須作品に焦点を絞ってご紹介します。

胴、注ぎ口、取っ手など、数多くのパーツからなる急須は、やきものの中でも特に複雑な構造を持ち、日用品でありながら技巧を凝らしたものとなっています。手のひらにすっぽりと収まるその形には愛好者も多く、愛知県の常滑を中心に多くの作品が作られています。日常のうつわづくりの盛んな笠間、益子でも、急須やポットを手がける作家が近年増えています。本展では伝統的な作品から、従来のスタイルにはとらわれない作品まで、さまざまな「急須」作品から、笠間、益子のうつわづくりの今を紹介します。



黒田 隆
「常陸白泥急須」(1975-77年頃 個人蔵)



若杉 集
「大津沢ボクリ土焼縮急須」(2019年 作家蔵)



上林 秀明
「炭化急須」(2020年 作家蔵)



鮎井 円美
「笠間土茶注・湯呑」(2020年 作家蔵)



おおむら 美土里
「灰釉白磁後手小急須」,「白磁宝瓶POKOPOKO」,
「鉄砂麦秋図横手小急須」(2018年頃 作家蔵)



田尾 明子
「藁釉急須」(2020年 作家蔵)

友の会からのお知らせ

編集委員募集

年3回発行「友の会だより」を仲間と一緒に作ってみませんか。

《会報は、編集委員と事務局員によって次により作られます》

- 発刊内容の検討・協議(対談作家の決定)
..... 年度当初
- 対談作家訪問(全員)
..... 年3回(各回2時間程度)
- 原稿取りまとめ(内容・文面検討)
..... メール等でやり取り

※友の会より実費相当の交通費が支払われます。

会員募集

茨城県陶芸美術館友の会では、会員を随時募集しています。陶芸が好き、陶芸についてもっと知りたい、体験してみたい...そんなあなたの期待に応えます。

年会費 3,000円(夫婦会員は2人で5,000円)

- 特典1** 常設展が、何度でも無料で観覧できます。
- 特典2** 企画展が年2回まで無料で観覧できます。
- 特典3** 会報の無料配付(年3回)を受けられます。
- 特典4** 特約店において、陶磁器等の購入で割引が受けられます。
- 特典5** 友の会主催の各種事業に参加できます。

お問い合わせは...

茨城県陶芸美術館友の会事務局までお願いします。
茨城県陶芸美術館友の会事務局(茨城県陶芸美術館内)
電話 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012



良い品をそろえてご来店をお待ちしています

友の会特約店のご紹介

- アトリエ・フラスカ 0296-72-9322
- 笠間工芸の丘 0296-70-1313
- 9月30日(水)～10月11日(日)
studio ZWEI vol.8 studio ZWEI 宇田直人
- 10月14日(水)～10月25日(日)
荒田陶房 器と小品展 荒田 耕治
マルヤマ タクヤ tomomi arata
- 10月14日(水)～10月25日(日)
Exhibition of "Syu" 金澤シュウ
- 10月27日(火)～11月8日(日)
アキビヨリ CRAFT BORO×BORO
- 10月27日(火)～11月8日(日)
Kōgei 日本工芸会東日本支部茨城研究会
- 11月11日(水)～11月29日(日)
笠間へようこそ・2 江橋勇・江橋圭子
ABEぐるぐる堂 atelier an
- 1月2日(土)～1月17日(日) 穂高 隆児 陶展
- 1月2日(土)～1月17日(日)
ひとにやさしい器展 ひとにやさしい器開発研究会
- 1月20日(水)～2月28日(日) 桃宴
- 1月27日(水)～2月14日(日)
アトリエCicada 二人展「おいしく楽しく」
田中尚 高橋沙緒璃
- 笠間民芸 0296-72-9280
- かつら陶芸 0296-72-6688
- ギャラリー桜 0296-72-0803
- ギャラリー爽鳳SOHO 0296-72-9121
- ギャラリー舞台 0296-73-0700
- 10月10日(土)～10月26日(日)
ひとひろ 陶と染織・紡ぎ 藤原里子・典子二人展
- 11月14日(土)～11月23日(月) 櫻井理人・あゆみ二人展
- 1月2日(土)～1月11日(月) 穂高隆児展
- 笠間焼窯元共販センター 0296-72-5665

- きらら館 0296-72-3109
- 10月13日(火)～10月25日(日) 松尾昭典 作陶展
- 10月27日(火)～11月8日(日)
大崎 透 作陶展「陶の動物園'20」
- 11月10日(火)～11月23日(月) 坪内孝典 作陶展
- 11月25日(水)～12月6日(日) 西村俊彦 作陶展
- 12月8日(火)～12月20日(日) 岩本倫子 作陶展
- 1月1日(金)～3月3日(水) 陶雛展
- 向山窯 0296-72-0194
- 丹野陶房 0296-72-4028
- 陶芸館 0296-72-6650
- ギャラリー陶正 0296-72-4007
- 東風舎 0296-72-5205
- 無限堂 0296-72-1695
- やまさき陶苑 0296-72-6865
- 涼 0296-72-0712
- ミュージアムショップ(館内) 0296-72-7105
- 7月18日(土)～10月18日(日)
「青か、白か、一青磁×白磁×青白磁」関連商品販売
- 10月1日(木)～12月20日(日)
特設作家コーナー 橋口暢広
- 10月14日(水)～1月17日(日)
「笠間と益子の急須展」関連商品販売
- 10月31日(土)～3月21日(日)
「人間国宝 松井康成と原清展」関連商品販売
- 12月24日(水)～3月28日(日)
特設作家コーナー 島崎小乙里
- レストラン「風の丘」(館内) 0296-72-0197

各店舗で買物をされる際、会員証を提示していただくと、陶器が10%割引となります。(一部除外品があります。) 笠間工芸の丘は体験のみ対象です。レストラン「風の丘」は飲み物サービスとなります。

編集後記

笠間市は国内有数の栗の産地です。コロナ禍により「かさま新栗まつり」は中止になってしまいましたが、市内の飲食店では栗を使ったメニューをたくさん用意しているそうです。芸術の秋そして食欲の秋、秋の笠間をお楽しみください。

友の会だより No.62

発行：令和2年10月1日
編集・発行：茨城県陶芸美術館友の会
〒309-1611 笠間市笠間2345
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012
編集委員：小薬 和子 鈴木 充 木川るりこ